

OSCE外相理事会（於：ウィーン）  
中根副大臣ステートメント  
（12月7日・8日）

議長、  
御列席の皆様、

（冒頭発言）

まず始めに、今次外相理事会を主催するオーストリア政府とOSCE事務局の皆様にご心よりお礼申し上げます。また、本年4月の活動中に亡くなられたOSCE特別監視団（SMM）の犠牲者に謹んで哀悼の意を表します。

（自由で開かれたインド太平洋戦略）

1990年代前半にOSCEとアジア・パートナー国の協力が開始されて以降、両者間の協力が進展し、OSCEのアジアへの関与・協力が深まっていることを歓迎します。

OSCE加盟国領域と、我々パートナー国が位置するアジア地域は、共にユーラシア大陸を構成しています。また、歴史的にも、活発な交易を通じて、アジアと欧州は密接なつながりを育み、双方に大きな利益をもたらしてきました。法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序は、アジアと欧州の安全と繁栄の礎となるものです。この観点から、アジア太平洋からインド洋を経て欧州に至る世界の活力の中核であるインド太平洋地域をいずれの国にも分け隔てなく安定と繁栄をもたらす国際公共財とするため、我が国は「自由で開かれたインド太平洋戦略」を推進しています。OSCE諸国とも積極的に協力していきたいと思っております。

議長、

(北朝鮮)

アジアと欧州の平和と繁栄を根底から脅かす脅威が存在します。11月29日、北朝鮮は、国際社会の平和的解決に向けた強い願いをまたしても裏切り、新型のICBMと称する弾道ミサイルを発射し、我が国の排他的経済水域に着弾させました。9月15日からの75日間、北朝鮮は挑発行動を控えたのではなく、核・ミサイル計画を着実に進めてきたのです。

今こそ国際社会の強い連帯の下、核武装した北朝鮮は決して受け入れられないことをアジアとOSCE諸国が結束して示す必要があります。北朝鮮に政策を変えさせるため、国際社会全体で、安保理決議を完全に履行し、北朝鮮への圧力を最大限まで高め、北朝鮮の方から非核化に向けた対話を求めてくる状況を作っていかなければなりません。

北朝鮮から非核化に向けた真剣な意思と具体的行動を引き出すべく、OSCE諸国の協力を要請します。また、拉致問題の早期解決にOSCE諸国の理解と協力を求めます。

(OSCEを通じた協力)

ウクライナ問題は、法の支配に基づく国際秩序の維持に対する挑戦であり、原理・原則の問題です。我が国は、OSCEの役割、特にSMMの活動を高く評価し、SMMに日本人専門家を派遣し、財政面での貢献を続けています。ウクライナの改革努力への支援及びOSCEへの貢献を継続していきます。

また、暴力的過激主義及びテロと闘うため、我が国は、OSCEを通じ、国境管理スタッフカレッジ等に拠出を行い、アフガニスタンと中央アジア諸国等の国境管理事業を支援しており、こうした支援を継続する考えです。

(結言)

国際社会が様々な脅威に直面する中、信頼醸成機構としてのOSCEの役割はかつてなく重要になっています。我が国は、最も歴史あるパートナーとして、今後とも加盟国及びパートナー国の皆様と共に取り組んでいく考えです。

ご静聴ありがとうございました。

(了)